

## 中尾

これからの時代は、歴史資産や文化を活かすことと人材育成の2つが大切と考えています。とくに、地域を愛するためには歴史遺産や文化を愛する心をはぐくんで行くことが必要です。歴史と文化を持っていきますので、落ち着きのある風格を持ったまちにしていきたいと考えています。そのためには感性の行き届いた考え方が必要で、「共創・協働・共創」の社会をめざしていきます。

## 目瀨

次に、歴史資産を活かした将来ビジョンについてはいかがですか。

## デルガド

サンタフェ市は今後も人口が増えていくと思っています。将来住みたい町といわれるような魅力あるまちにしたいです。

## 土野

歴史資産を活用した「ウォーキングシティー構想」を持っていきます。町を歩くことを通じて古を振り返り、思いを巡らすことのできる回想のまちづくりをめざしたいと思えます。



コーディネーター  
アシスタント  
パネリスト

目瀨 守男（美作大学学長）  
桐生 和幸（美作大学助教授）  
ラリー・デルガド（サンタフェ市長）  
ヘンリー・レンフリック（ライデン市長）  
ステファン・ピュフェト（ベルサイユ副市長）  
土野 守（高山市長）  
中島 巖（津和野町長）  
中尾 嘉伸（津山市長）

## レンフリック

私たちは、ライデン市を発見のまち、知識のまちと呼びたいと思います。観光客に来ていただき、期待どおりのものを提供したいと考えています。

## 中島

古いものを大切にしながら新しいものも生み出し、歴史資産につなげていくことも考えています。また、古い歴史を持った城跡があることで、多くの遺構を整備して日本屈指の城跡にしたいと考えています。さらに、無形文化を大切に、町全体をミュージ

アムタウンにする構想も持っています。

## ピュフェト

ベルサイユ市は、本当の意味での経済的發展をめざしたいと思っています。観光産業の発展とハイテク企業の誘致を大きな目標としており、伝統と歴史に加えて住みやすいライフスタイルをベルサイユの売りとしています。

## 中尾

歴史資産を活かすためには、住民のみならず、理解と協力が不可欠で、時間と努力が必要です。なぜ大切にしなければ

らないのかから考え、誇りに思える地域であるという情感を醸成していかなければなりません。

津山は人情の町ともいわれていますが、そのような風俗も大切に、文化財一つひとつをみんなですべていく気持ちで大切にしたいと思えます。

## 目瀨

それぞれの考え方は、イベントを通じて住民の理解を得るとともに外部から観光客呼び活性化につなげていくことが重要。観光資源を点から面に広げ活用していくこ

とが必要。新しい観光資源の発掘と創出のための取り組み。観光についての教育。観光以外の地域活性化のための取り組み。という5つの考え方にまとめられることができると思えます。

## 桐生

まちづくりの中で重要になるのが外向けのアピールの方法です。外からいかに人を呼び込むか、観光や会議などの機会を捕らえて、どうアピールしていくかが大切になります。もう1つは内部へのアピールの方法で、住民側の意識の向上を図る取り組みです。住んでいる人が快適に感じ誇りに思えるように歴史資産を体験できる場も必要だと思えます。

津山で初めて開催した国際会議で、津山のまちづくりの取り組みを世界に発信することができました。国内外の都市の歴史資産を活かした取り組みを参考に、これからのまちづくりについて市民みなさんといっしょに考えていきたいと思えます。